

[野菜部門]

5. 低温処理によって花芽分化を促進すると「ゆめのか」の先青果の発生が減少する

[要約]

「ゆめのか」の低温暗黒処理または夜冷短日処理によって花芽分化を促進すると、雌ずい形成期が高温期に当たることから頂果房頂果の先青果の発生が少なくなる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

---

[背景・ねらい]

イチゴ品種「ゆめのか」は頂果房の頂果を中心に先青果の発生が多いという問題点があるため、先青果軽減対策が求められている。頂果房頂果の先青果の発生は頂花の雌ずい形成期頃が高温となった年に少なかったため、先青果の発生には温度が影響していると考えられた。そこで、低温暗黒処理または夜冷短日処理によって花芽分化を促進し、雌ずい形成期を高温期に遭遇させた時の先青果発生について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 低温暗黒処理または夜冷短日処理によって花芽分化期が8日早まり、雌ずい形成期が秋の高温に遭遇する。普通ポット育苗と比較して低温暗黒処理では開花期は10日、収穫期は15日、夜冷短日処理では開花期は8日、収穫期は13日早くなる（図1、表1）。
2. 雌ずい形成期に高温に遭遇したことにより頂果房頂果の先青果の発生は減少する（図2）。
3. 花芽分化期の前進化及び先青果の発生軽減によって低温暗黒処理または夜冷短日処理の年内商品果収量は普通ポット育苗よりも多くなる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 先青果の発生軽減が確認できているのは頂果房頂果についてのみである。
2. 秋が低温の年には先青果が増加する可能性がある。

[具体的データ]

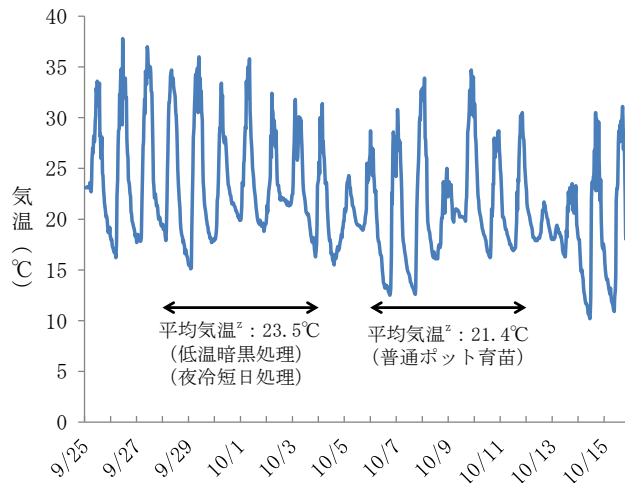


図1 試験を実施したハウス内の気温の推移  
<sup>z</sup> 雌ざい形成期確認日の前日から7日間の平均気温

表1 花芽分化促進処理が定植日、開花期、収穫期及び花数に及ぼす影響

処理	定植日 <sup>x</sup>	頂花(果) 房頂花(果)		花数 (花)
		開花期 <sup>w</sup>	収穫期 <sup>v</sup>	
低温暗黒処理 <sup>z</sup>	9/9	10/23	11/24	18
夜冷短日処理 <sup>y</sup>	9/9	10/25	11/26	25
普通ポット育苗	9/17	11/2	12/9	25

<sup>z</sup> 8/25～9/9の15日間、15℃一定の暗黒条件下で処理した

<sup>y</sup> 8/25～9/9の15日間、日長8時間(9時～17時)、暗期温度15℃で処理した

<sup>x</sup> 頂花房頂花の花芽分化を確認した日

<sup>w</sup> 50%の株が開花した日

<sup>v</sup> 50%の株で収穫を開始した日

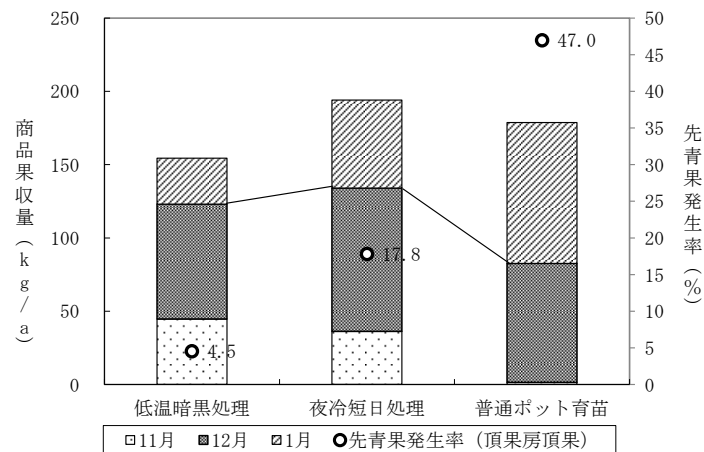


図2 花芽分化促進処理が商品果収量及び先青果発生率に及ぼす影響

[その他]

研究課題名：イチゴ優良導入品種の栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2011～2013年度

研究担当者：網島健司、岡修一